

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890200421		
法人名	紫陽花ケアサポート日立		
事業所名	グループホームあじさい	ユニット名(2階)
所在地	日立市若葉町3-12-12		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 27 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=frue&JigyouvoCd=0890200421-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方にあった出来る事を個々にみつけ、行って頂く。現在は洗濯干しや洗濯畳み、食器を拭いたり、手すり、テーブルを拭いたり等を行って頂き、施設での自分の役割を見出してもらい生活のハリをもって頂く様に支援しています。外の空気も1日に1回は感じてもらいたいため、散歩も天気の良い日はほぼ毎日行っており、外に出る事と歩く事を意識し、心身の維持に努めている。また、天気の悪い日も外に出たい意向があれば、個々にドライブに連れていき気分転換も図ってもらえるように臨機応変に対応を行っている。職員は常に利用者様と、共に行事を念頭にいれ出来なくても諦めずに違う出来る事を見つけられるように日々考えながら精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2020年4月に開設で閑静な住宅の一角にある。管理者と職員は事業所理念の「笑顔とまごころを添えて、諦めないケア」に重点を置き、利用者は職員と共にホーム内のお掃除や窓ふき、食事の準備など得意分野を見出して手伝って貰うなど、今までの暮らしぶり変わらない生活が送れるよう支援している。新型コロナウイルス感染症予防の為に外出は自粛しているが、個々に公用車で桜見学や海へドライブに出掛けるほか、近隣の散歩は幾通りのコースを設定し、利用者の状態に合わせて毎日行うことで、利用者の健康維持や気分転換になっている。月2回の訪問診療のほか、定期的に看護師の訪問があり状態に応じて相談にのったり、緊急時には対応できるなど利用者や家族等にとって安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口と事務所に掲示をして全職員が日々業務前に確認をしてから業務にあたるように努めています。	地域と共に暮らしていくことを前提に「笑顔とまごころをそえて、諦めないケア」を実践している。理念を玄関や事務所に掲示し、意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、日々の日課である散歩を行っておりその中でいつも歩いているご近所の方と利用者様、職員共に挨拶等させて頂き、交流を図っている。	基本的に毎日散歩を行い、近隣住民と挨拶や会話で交流を図っている。近隣住民が施設の見学や認知症の相談に来ている。コロナ禍でボランティアの受け入れは行っていないが、受け入れ態勢は整っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方には上記の散歩を通して、「認知症の方でも普通に散歩ができるんだ」というご理解は頂いていると思います。さらに見学やご相談に来られた方々には随時職員がご支援等させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で、市役所とも相談をして現時点ではまだ開催できておりません。	市との合意により、会議は実施していない。新型コロナウイルス感染症の状況改善後は何時でも開催する準備はしている。	コロナ禍の影響で会議は開催されていないが、来年度に向けて事業所の行事や取り組みなどをメンバーに報告し、意見等を聞く取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者等が担当の方と電話やメールでやりとりさせて頂き、不明な点等は随時確認をとりながら連携を図っております。	開設一年目であることから、市の担当者とは運営推進会議の進め方などを含め、連絡を密に取りあい良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の指針を作成し、全職員が確認の徹底を行っている。定期的に勉強会も開催し防止に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催している。身体拘束についての勉強会を実施して、全員が身体拘束についての正しい知識を身に付け、拘束の無いケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会を開催し、全職員が虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会を行い、全職員が知識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご本人、ご家族の方にも分かりやすく説明し、理解・納得をして頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット毎にご意見箱を設置し、ご意見があればそれらを運営に反映させています。また苦情担当者も設け、ご本人、ご家族からの電話等も随時受付しており、ご意見があればその都度対応し、運営に反映しています。	重要事項説明書において、受付担当者や解決責任者、第三者機関などについて丁寧に説明している。各ユニットに意見箱を設置するほか、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、電話でも随時意見や要望を受け付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に定期的に会議を実施しています。そこで職員からの意見や提案があればそれを代表者に提出しています。	ユニット会議を定期的に行い、職員から出た意見や要望、提案等は代表者に提出している。職員から出た意見に対しては迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から物品等の提案があれば代表者は必要性を把握した上で、購入してあげ、職員の働きやすい環境の支援を行っている。また勤務状況等も把握して個々に応じたアドバイス等も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナの影響で行けていないが、施設内での研修を行いそれらを現場で実践して行くよう努めています。さらに代表者は個々の職員が働きやすいよう力量に応じた部署の配置にも心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社系列の施設職員とも交流を図り、その中で情報交換も行いながらお互いにサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査で本人が困っている事等を把握し、入所当初からすぐにそれらを払拭できるような支援が出来るよう努めています。また随時要望等があればそれらに耳を傾け、個々にコミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めにご家族の要望等を伺い、安心頂けるような対策や支援内容をお伝えします。またその都度困っている事等があれば、改善に向けて適切な対応をするよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々本人の心身の状態を小まめに把握し、状態に合わせて臨機応変に対応をするよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に～をする。を常に意識をしながら、お茶を飲んだり、散歩に行ったり、料理もしたり等同じ目線で接するよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会が出来る時には時間の制限を設けず、ゆっくりと本人とコミュニケーションを図って頂いています。また本人の支援方法をご家族のご意見やアドバイスも聞き入れる関係性も築いていけるよう努めます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会制限がなければ自由に入出入り出来るようになっていきます。必要であれば外出における送迎もサービスで行っております。	利用開始時に本人や家族等からの情報でこれまでの馴染みの関係を把握している。コロナ禍により、訪問は受けていないが家族等の面会を窓越しに行う等、工夫しながら人との関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに話しが合う方等を職員が考慮し、席順も工夫しながら本人が孤立しないように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	もし、相談等があればできるかぎりの支援をさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人が何を望んでいるかを職員が把握しているように努めています。それらが困難な場合には本人にきちんと理由を述べて納得してもらえる様に話を理解して頂いています。	殆どの利用者は言葉で伝える事が出来ており、丁寧に話を聞き、気になることは申し送りノートに記録し、職員間で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握して職員全員が共有しています。またご家族からも情報を伺い、サービスに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人で出来る事は行ってもらうようにしています。過剰介護にならないようにできない部分のみを支援しています。また日々の心身の状態を観察し状態に応じて対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題については本人や家族からの要望も聞きながら、その都度、職員の意見や看護師、医師等からも意見を伺い計画に反映している。	本人や家族の意向を聞きながら、必要に応じて医師・看護師の意見を取り入れて、日々の暮らしに反映できる丁寧な介護計画が作成されている。毎月モニタリングをすることで、利用者の状態に応じて随時の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には行ったケアはもちろん、状態の変化等も記録に残し、全職員で情報の共有を図っている。その中で状態の変化が見られた時にはその都度多職種も含めて、見直しを行い、統一した支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば散歩に行く予定を立てていたが、気温が寒くて行けない時には、車に乗せてドライブに変更する等、柔軟に対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ隣にコンビニがあり、行きたい人には職員が付き添って買い物をさせる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの個人契約で、往診に来てもらったり、掛かりつけのクリニックに通っている人もいたり等、本人やご家族の希望を優先しております。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。契約時にかかりつけ医又は協力医療機関の診察が可能なことを説明している。受診には基本職員が付き添い、医師への状況の説明も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問にきているので、その都度状態の報告をし、相談にもなってもらっています。必要であれば緊急時には駆け付けて対応をもらい、病院受診の指示ももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には病院の相談員と連携し、常に状態の確認を行い退院支援に向けた協力を努めている。認知症の相談をしている病院相談員とは普段から情報交換をさせて頂いており関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人、ご家族に意向を伺うと共に事前確認書類にもサインを頂いています。また状態の変化に伴い、その都度本人家族主治医とも相談しながら再確認を行い支援をしていくよう努めます。	重度化対応・終末期ケア対応指針に係る同意書がある。基本的には看取りは行わないが、入院や他所への移動が決まるまではホームが責任をもってケアに当たっている。職員は訪問看護師による研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師に指導を仰ぎながら施設内での応急処置を学んでいます。AEDも置いてあるので、そちらの使用に関しても時期が来たら消防の方から指導を仰ぐ予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練の実施と夜間想定での緊急連絡の確認や避難経路等の確認も随時行いながら災害に備えられるよう努めます。	災害時の緊急連絡網を作成している。夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行って課題について話し合っている。解説間もないこともあり、近隣住民への協力の呼びかけはまだ行われていない。	災害時の協力要請と避難訓練の際の参加などを近くの住民に依頼する事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を自覚し、言葉遣いや対応は敬う気持ちで接しています。また、本人と話す時も表情を観察しながら話し本人が嫌がるような話は避けるよう気を付けて行っています。	人生の先輩であることを意識した丁寧な言葉かけや本人の好まない話題を避ける等の配慮をしている。利用者それぞれが掃除・料理作り等得意とする事を役割として誇りある暮らしが出来るよう支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望等があれば言ってお知らせ、という事は話しています。その中で外出等の希望があれば出来る限り送迎等の支援も行う様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日、ご本人とお話をし何をしたいか等を聞きながら、自分のペースで希望通りに過ごせるように留意しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな服や化粧等を楽しんで頂けるよう配慮しています。選んだりすることが困難な方は事前にご家族から好きな洋服等を用意してもらい、職員がそれらを着ていただくように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と一緒に食事をし、出来る人は準備、あと片付けを手伝ってもらっている。好き嫌いがある方はそれらを考慮して嫌いな物の献立が事前に分かるので、個別に違う食事を提供している。	利用者の苦手な物は予め把握してあり代替え食を用意している。業者から食材を取り寄せ、職員と利用者で作っている。季節ごとの行事食を提供するほかテイクアウトの食事などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日記録していて全職員が把握できている。少ない時には飲むよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きをするよう声掛けを行っている。一人で難しい方は職員が介助をして支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握する為、観察、記録を実施し支援に活かすようにしています。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけしている。排泄のトラブルに際しては医師や看護師と相談しながら排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で出ていない方の把握に努めている。その方には水分摂取や運動等のアドバイスをを行い、それでも出ない場合には医師や看護師等に相談し場合によっては下剤の服用も検討して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った形で入浴してもらっている。入浴時間も本人の希望通りに入ってもらい入浴剤等も日によって変えたり等、楽しんで頂く支援もしている。	湯は一人入浴するごとに入れ替えており、適宜入浴剤などを入れて楽しんでいる。入浴を好まない利用者に対しては、タイミングを図ったり、ゆっくり話をしたりして、お風呂へ誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は一人一人の生活習慣に合わせて支援している。ただ、夜ぐっすり眠れるようになるべく昼は散歩等の活動をして過ごすように促すように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬剤情報を職員全員が理解し把握できるよう努めている。疑問が生じた場合や誤薬等が生じた場合には速やかに薬剤師に連絡をして指示を仰ぐ体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に出来る事を支援しながら生活してもらっている。料理が出来る人は厨房でお手伝いをし掃除が得意な方は窓ふきをしてもらったり等、それぞれの役割を与え張りのある生活をしてもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見に行ったり、海を見たり等の外出を出来る限り外に行く機会を多く設けるように努めている。	毎日コースを何通りか決めて近所の散歩を楽しんでいる。公用車で季節毎に花見や海を見に行ったりして外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持てる方は自分で管理をして頂いています。出来ない方は、本人が買い物に行きたいと言った場合には事業所のお金を一時的に貸して、それらは後で口座からの引き落としで引かせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の申し出があれば施設内の電話をお貸ししています。手紙も依頼があれば代わりにポストに出しに行ったり等の対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように四季折々の装飾等をして、家庭的な雰囲気を感じられるように配慮しています。ダイルームにソファをおいて寛げる環境にもなっています。	居間のテーブルは円卓でお互いが自然に顔を見ながら話せるようにしており、和やかな雰囲気を作り出している。壁面はすっきりと清潔な感じに整えられている。温度管理や湿度管理が丁寧に行われ、見やすい時計、カレンダーなど利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。寛げのスペースにはソファを置いて、共用の場で一人で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーに配慮しつつソファ等を自由に使用して頂き、居場所の確保に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り本人が愛用していた物を持ち込んで頂き、ご家庭にいた時と同じような雰囲気で過ごして頂いています。	管理者は自宅で使い慣れた品物を持っていただけるように話し、それぞれはこだわりの品々を置いて、安心して、自宅にいた時と同じような雰囲気で過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、エレベーター、トイレ等には手すり等が設置されています。各部屋にはクローゼットもあり私物を自由に管理して頂いています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい

作成日 令和 3年 4 月 6 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナの影響で運営推進会議が開催出来ないが、次年度に向けて事業所の行事や取り組みをメンバーに報告し、意見等を聞く事を検討する。	各メンバーに取り組み等を郵送し、意見等を伺う	昨年1年間の取り組みや行事を書類にまとめ上げ、それを各メンバーに送りご意見があればそれを参考にさせて頂く	1ヶ月
2	35	災害時の協力要請と避難訓練の際の参加などを近くの住民に依頼することを検討する。	近隣の方々に災害時の避難等に対して支援を依頼し、地域との協力体制の確立をしたい	まずは近隣に避難訓練の実施を呼びかけ、避難場所先を近隣の土地をお借りする等からスタートをしたい。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。